

# 市長と語ろう！タウンミーティング 報告書

～ 北秋田市のふるさと納税について ～

令和6年2月24日（土）13：30～15：00

北秋田市民ふれあいプラザ 1階 多目的ホール

## 【出席者】

北秋田市長

津谷 永光（つや えいこう）

（株）ウィルドリブン

高田 要一郎（たかだ よういちろう）さん

（有）藤岡農産

藤岡 智洋（ふじおか ともひろ）さん

HOLTO

布田 真哉（ぬのた しんや）さん

ファシリテーター（秋田大学北秋田分校長）

三浦 栄一（みうら えいいち）

司会（北秋田市総合政策課長）

福島 統（ふくしま とう）

（敬称略）

他、参加者 25 名

## 次 第

1. 開 会
2. 市長あいさつ
3. ファシリテーター紹介
4. 北秋田市ふるさと納税について
5. 参加者自己紹介
6. トークディスカッション

### 【トークテーマ】

- ①事業者からみたふるさと納税制度の魅力等について
  - ②返礼品として選んでもらうために工夫していること
  - ③新たな取組への展開について（ふるさと納税に取り組んだことを契機として今後こんなことを行ってみたいなど）
7. 市長感想発表
  8. ファシリテーターまとめ
  9. 閉 会

## 1. 開会

### 司会

これより「令和5年度 市長と語ろう！タウンミーティング」を開会いたします。本日司会進行を務めます総合政策課長の福嶋と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに津谷市長から皆様にご挨拶があります。

## 2. 市長あいさつ

皆さんこんにちは。

本日はお忙しい中、「市長と語ろう！タウンミーティング」にお集まりいただき、ありがとうございます。今回のタウンミーティングは、「北秋田市のふるさと納税について」であります。

開催にあたりまして、当市のふるさと納税業務代行事業者であります株式会社ウィルドリブンの高田代表、並びにふるさと納税登録事業者の皆様、また、ファシリテーターをお引き受けいただきました秋田大学北秋田分校長の三浦先生に対しまして、心より感謝申し上げます。

ふるさと納税につきましては、令和3年度に本市に寄せられた寄附額が14億3千94万9千円とこれまでの過去最高額を更新し、平成20年度の制度導入後、初の納税寄附額県内第1位となりました。

さらに、令和4年度につきましても、14億3千337万524円となり、令和3年度を更に上回る寄附額となりました。

ふるさと納税寄附額が好調な要因といたしましては、コロナ禍での巣ごもり需要を背景に、食料品などの返礼品が寄附拡大につながったものと捉えておりますが、本市においては、納税窓口となるポータルサイト数を増やしたことや返礼品の充実を図ってきたことが、このような結果に結びついたと考えております。

全国的に見ましても、令和4年度のふるさと納税寄附額は約9千654億円、寄附件数は約5千184万件と年々増加しており、寄附額も1兆円に迫る勢いとなっております。

本日は、「ふるさと納税の魅力」や「返礼品として選んでいただくために工夫していること」など、関係者を交えてトークディスカッションを行うことで、新たな気づきやアイデアが期待できるものと考えており、ご参加いただきました皆様には、普段から考えていることや感じていることについて、率直にお話をしていただければと思います。

また、ご来場いただきました市民の皆様におかれましても、参加者の皆さんそれぞれのお話を聞いていただき、ともに語り合う機会にしたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

## 3. ファシリテーター紹介

### 司会

本日のファシリテーターである三浦栄一さんをご紹介します。

三浦さんは、昭和57年より県内の小学校において教鞭をとられ、令和2年3月に退職されるまで合川西小学校校長や統合校である合川小学校初代校長などを歴任されております。

また、非常に多くの趣味・特技をお持ちでありまして、昭和58年に結成したポップスデュオ「ダックスムーン」では県内を中心に数々のイベントでライブを行うなど歌を通じた地域おこし・地域づくり活動に励んでおられます。そのほか合川小学校や清鷹小学校の校歌の作詞も手掛けられております。

現在は、秋田大学北秋田分校長の傍らラジオ番組のパーソナリティを務められるなどお忙しい毎日をご過ごされております。

それでは、ここからの進行は三浦さんにお渡ししたいと思います。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

トークディスカッションに入る前に、市の方から今回のテーマになっている「ふるさと納税」について北秋田市の現状等についてご説明いただければと思います。

### **市担当者**

ふるさと納税制度は、多くの地方の方々が進学や就職を機に生まれ育ったふるさとから都会に移り住んでいることから、そのような方々がふるさとや応援したい自治体に納税できる制度があっても良いのではないかとということで、平成20年度から始まった制度です。寄付者が寄付時点の住所地以外で自分のふるさとや応援したい自治体に寄付すると、寄付した自治体の特産品などの返礼品がもらえます。寄付者は手続きを行うと原則、寄付額のうち2,000円を超える部分が所得税及び住民税から控除されます。

北秋田市のふるさと納税の推移ですが、始まった当初は100万にも満たない額でありましたが、令和2年度には前年度の約18倍の約5億円、さらに令和3年度は14億3千万となり、県内で初の納税寄付額1位となりました。令和4年度は3年度を上回りましたが残念ながら仙北市に次いで2位でした。

全国的に、ふるさと納税が伸びている要因としてはコロナ禍での巣ごもり需要を背景とした食料品などの返礼品が寄附拡大につながっているものと思いますが、北秋田市においては、寄付の受付窓口であるポータルサイト数や返礼品の種類を増やしてきたことが結果につながっているものと考えています。

次に北秋田市のふるさと納税返礼品の傾向についてカテゴリ別でみると、令和3年度の傾向ですが、「米」が圧倒的に多く、その他では珪藻土商品などの雑貨や比内地鶏スープなどの加工品が続きます。米以外は年度によって多少のばらつきはありますがさほど変わりません。米などの農産物はその年の気象条件により品質や収量に大きく影響するため気象条件に左右されない返礼品の掘り起こしを行っていかなければならないと考えています。

最後に、北秋田市におけるふるさと納税の新たな取組みとして、令和4年度から「チョイス Pay」を導入しています。「チョイス Pay」の利点は、従来は寄付後、返礼品が届くまでに時間がかかっていましたが、「チョイス Pay」を利用した場合は寄付した直後から電子ポイントが利用できるというもので、現在、市内では11施設で利用できます。その他、継続してポータルサイトや返礼品の充実を図りながら全国の皆様に寄付していただけるよう取り組んでいます。

また、皆さまからいただきましたご寄附につきましては、寄付手続きの段階において市の総合計画の基本理念に掲げる6つの項目のなかから用途を選択していただいたうえで、その項目に関連する、例えば産業振興や子育て支援・高齢者支援などの事業に幅広く活用させていただいています。

## **5. 自己紹介**

### **ファシリテーター（三浦さん）**

トークディスカッションに入る前に、本日参加していただいている皆さんに一人ずつ自己紹介をしていただきたいと思います。ご自身の事業紹介などを交えて自己紹介をお願いいたします。

### **ウィルドリブン（高田さん）**

「株式会社ウィルドリブン」の高田です。本日はよろしく申し上げます。

私自身は秋田市出身ですが、実家が稼業を営んでおり、阿仁前田駅向かいの商店が発祥の地であるという縁もあったことから北秋田市のふるさと納税に係らせていただいております。会社は、ふるさと納税の

運営をサポートする業務を行っており、ふるさと納税をしていただいた寄付者への返礼品の発送に関することやお問い合わせ対応、トラブル対応のサポートなどを行っています。現在は秋田県内外の14自治体のサポートを行っています。ふるさと納税は地域のためになる非常に良い制度だと思っているのでこのような機会を光栄に思っています。

### **藤岡農産（藤岡さん）**

「有限会社藤岡農産」の藤岡です。本日はよろしくお願ひします。

会社は、平成9年に父親が立ち上げたもので米の生産から販売までを行っています。昨年度の作付面積は75haで今年度は約85haです。従業員は15名でうち東京に営業員が1名います。ふるさと納税が始まるまでは都内の飲食店が主な取引先でしたが、コロナ禍の影響でふるさと納税の比率が大きくなっています。

### **HOLTO（布田さん）**

「HOLTO」の布田です。本日はよろしくお願ひします。

私は、家具の製造と内装業を行っています。

## **6. トークディスカッション**

### **ファシリテーター（三浦さん）**

トークディスカッションに入ります。

本日は3つのテーマを設けています。一つ目は「事業者からみたふるさと納税制度の魅力等について」、二つ目は「返礼品として選んでもらうために工夫していること」、三つ目は「新たな取組への展開について（ふるさと納税に取り組んだことを契機として今後こんなことを行ってみたいなど）」になります。

時間が限られていますが、テーマに沿って皆さんと話を深めていきたいと思っています。

はじめに「事業者からみたふるさと納税制度の魅力等について」になります。

### **ウィルドリブン（高田さん）**

昨年度は3万5千件を超えるご寄附をいただいたとありましたが、サイトを見ただけでも実際に寄付に至らなかったという方もいます。そういう方々を含めると約40~50万人の方がサイトを見ているものと思われまふ。北秋田市の人口の約20~30倍もの方々がサイトを見ていることになり、都内にアンテナショップを構えたとすると1日に1,400人もの方々が訪れている計算になります。

自治体、事業者、寄付者それぞれの観点からお話すると、自治体側では自治体の魅力を多くの方々に届けられ、事業者側はふるさと納税にかかるコストを自治体が負担するため、参加するうえでの障壁が少ない。また、寄付者側からすると思い出の場所のお米を食べることができてうれしいなどつながりを持つことができるがすばらしいと思っています。

### **藤岡農産（藤岡さん）**

ふるさと納税は、令和2年から始めましたが、ちょうどコロナの影響で巣ごもり需要が増え始めたときでした。それまでは飲食店が主な取引先だったので大変な状況になると思っていたところにウィルドリーブンの高田さんから声をかけてもらったのがきっかけです。当初から注文が順調に増えてきましたが、寄付者から色々な意見もいただきました。それに対応することによって従業員の意識も変わってきて成長しました。

また、寄付者から直接感謝の気持ちをいただけることがふるさと納税の魅力に感じています。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

北秋田市のふるさと納税の割合では米がダントツで多いですが、米は色々な地域にあるのになぜ魅力

となっていると感じていますか。

### **藤岡農産（藤岡さん）**

始めた当初はどこでも 10 kg 単位のものが多かったのが、藤岡農産では 5 kg 単位での販売方法を行っていたことが選ばれた理由のひとつだと思っています。

また、定期便のシステムを取り入れたことも良かったと思います。

### **HOLTO（布田さん）**

自社の製品の販路拡大につながることで、色々な方々との出会いがあることだと思います。実際に製品を買っていただいた方がわざわざ自分に会いに来てくれたことがあって嬉しかったです。

また、自分が住んでいる北秋田市がふるさと納税によって潤うことが一番の魅力だと思います。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

みなさんからの発言を踏まえて市長から発言をお願いします。

### **市長**

高田さんからのお話でもあったとおり、約 40～50 万人の方にサイトを見ていただいているということは大変ありがたいと思っています。

また、藤岡さんからのお話にあったように市にも寄付者の方々からお礼のお手紙をいただくことがあります。そのような方々のなかには故郷になかなか帰れないのでお礼の代わりに寄付を行ったとか市民病院での治療でお世話になったからというような事が書かれていたりします。そのような人と人のつながりを大切にしてきたことが北秋田市のふるさと納税が増えている要因のひとつだと思っています。

また、お米は全国どこでも返礼品としてありますが、北秋田市では提供する方法を少量で小分けにしたり、精米したてのものを発送したり、お米の保存方法や美味しい食べ方などのチラシを返礼品と一緒に送るなど返礼品登録事業者の方々には独自に色々な工夫を凝らしていただいています。

布田さんは受注生産で行っているので本当に大変な思いをしながら作っていただいています。

行政が何か行っているというよりも事業者の方々の努力と工夫があったからこそここまで成長してきたと思っています。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

市の財政規模からすると 14 億円を超える寄付額というのはものすごい額であり、それだけ魅力があるということだと思いますが改めて北秋田市の魅力とはどのようなところだと思いますか。

### **ウィルドリブン（高田さん）**

最初のきっかけとなるのは返礼品だと思います。北秋田市には魅力的な返礼品を扱っている事業者がたくさんいますが、お米に関しては全国でこだわりを持って作っている生産者がいるなかで藤岡農産ではお客の声に真摯に耳を傾けてサービスを向上させようとしている意識が高いことだと思います。

北秋田市は、非常にリピーターが多いのが特徴で安定して 14 億円規模の寄付額を維持しているのはサービスを向上させようとする事業者の意識や布田さんのように他では見られないような代替えの利かない斬新なデザインの商品を安定的に供給できていることだと思います。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

先程、寄付者の方々からご意見をいただいたとのお話がありましたがもう少し詳しく教えてください。

### **藤岡農産（藤岡さん）**

会社として行っていることのひとつに発送する際にチラシを入れていますが、これは従業員のアイデアで元々は「ありがとう」の言葉を入れようということから始まったものが、もっと身近に感じてもらうために会社で飼っている猫の気持ちになって生産者の気持ちを秋田弁で伝える取り組みを行いました。そ

れが寄付者の方々に伝わったと思っています。

### **HOLTO（布田さん）**

ふるさと納税をしていただいた方が直接会いに来てくれたことが嬉しかったのですが、寄付者には作っている自分の顔はわからないので会ったときにびっくりされたということがありました。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

寄付者は北秋田市とのつながりがある方やそうでない方がいると思いますが、それがわかるデータなどあるのでしょうか。

### **ウィルドリブン（高田さん）**

サイトによっては実際に出身地であるかがわかるようなものもありますがすべてが正確にわかるものはありません。コメントを自由記述で書いていただけるのでそこに記載されている内容でわかることもあります。しかし、大多数は北秋田市とつながりのない方々が占めています。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

次のテーマ「返礼品として選んでもらうために工夫していること」についてです。

### **藤岡農産（藤岡さん）**

ふるさと納税を始めた最初の頃には、お米の発送周期として12ヶ月とか6ヶ月とかはありましたが、もっと細かな設定が出来ないか高田さんへ相談しました。それが1ヶ月単位で行うきっかけとなりました。

また、生産から販売までを責任を持って行うことを目標にしている、そのなかで袋のデザインやインターネット販売、東京への営業職員の配置など色々な工夫や取り組みを行っていたので、ふるさと納税を始める前のある程度の下地があって特段新たに何かをやらなければならないことが少なかったことです。

### **HOLTO（布田さん）**

製品を作るときに自分しか作らないだろうというオンリーワンのデザインで作って提供するように常に心掛けています。ふるさと納税で取り扱っているカットティングボードもその考え方で作ったものです。

### **ウィルドリブン（高田さん）**

事業者の商品登録数やバリエーションを増やしたりすることを最初に取り組みましたが、そこには独自のデザインやサービスが前提にあつてこそだと思っています。北秋田市では結果としてお米が大きなウェイトを占めていますが、それは求めている人の規模感だけの違いだと思っているので、求めている人に対してどれだけ興味を持たせるかが大事で腕の見せ所だと思っています。そのような考え方からお米のラインナップを増やしたことにつながっています。

また、お米の受け取り時期を寄付者の希望に合わせるサービスを行ったら、すごい人気になりました。これによって適正な時期に適正に送ることが可能になって美味しく食べていただけることにつながったので事業者にも寄付者にも良いことだと思っています。そのようなサービスを作り上げられる柔軟な考えを持った事業者がいることが結果として選ばれている要因だと思っています。

ふるさと納税は全体で1兆円を超える規模にまで拡大すると見込まれていますが、寄付額の30%が返礼品の代金に充てられることになるので約3千億円の商品が売れているのと同じこととなります。その規模になると大手企業の参入が増えます。そのときにこれまでの実績があると検索の上位になるので、実績を積み重ねて優位性を保つことが重要だと思っています。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

みなさんからの発言を踏まえて市長から発言をお願いします。

### **市長**

事業者の方々はそれぞれに非常に工夫されていることがわかりました。今後、大手企業が参入してくる

可能性があるとお話でしたが、そうなるのであればこれまでよりもさらに選択肢が増えるということになります。しかし、北秋田市の強みはこれまで積み重ねてきたつながりを大切にしていることだとだと思います。

また、布田さんの製品は大量生産出来ませんが、それが弱みではなく逆に自分しか作れないもの、北秋田市でしか作れないものという強みであるので、農産物に限らずそのようなものが北秋田市にはまだあるのでこれからも可能性があると思いました。

### ファシリテーター（三浦さん）

ポイントとして①見てくれる人をどのように増やすのか、②製品のブラッシュアップ、③寄付者のニーズを捉えるということがあると思いますがいかがでしょうか。

### ウィルドリブン（高田さん）

ニーズという点では、常に考えながら事業者の方々のご相談をしています。ニーズについて考える機会がふるさと納税にはたくさんあると思っています。実家の商売でも地域の役に立つためにどうすればよいかを考えていますが、情報を得るのは難しいです。しかし、ふるさと納税では全国でどのようなことを行っているのか興味を持って調べられて、しかも商品のレビュー等で寄付者の声がわかるようになっているのでニーズを捉えやすくなっています。

### 藤岡農産（藤岡さん）

米作りは1年に1回しか出来ないなかで毎年美味しい米を作ろうと頑張っていますが、どうしても天候に左右されるものなのでその年によっては目指している品質に届かないこともあります。そうしたときにやれることとして、米作りを知ってもらったうえで購入していただけるように SNS 等を活用して知ってもらう取り組みを行っています。

### HOLTO（布田さん）

当たり前のことですが付加価値をつけるためには手を抜かないことを心掛けています。工程として省いても影響のない工程であったとしてもあえて省かずに行うことで付加価値が生まれるものだと思っています。

### ファシリテーター（三浦さん）

藤岡さんから米作りは気象条件に左右されるというお話がありましたが、その点についてどのように考えていますか。

### 藤岡農産（藤岡さん）

生産者からすると不安はありますが天気には逆らえない職業なので、ある程度は仕方のないことだと思っています。そのような状況であるということを理解してもらうことが初めになければならないと思います。そのような説明を行えるか行えないかが選ばれるものであるか否かの違いとして出てくると思います。

### ファシリテーター（三浦さん）

最後のテーマ「新たな取組への展開について（ふるさと納税に取り組んだことを契機として今後こんなことを行ってみたいなど）」についてです。

### HOLTO（布田さん）

自分としてはやれることを手を抜かずにやり続けることです。

それと、ふるさと納税の返礼品として家具を出してみたいと思っていますが、家具は大型になるのでキット販売のような形で行えればと考えています。

また、具体的にはありませんが機会があれば他の事業者とコラボして商品開発を行えればと思っています。

ます。

### **藤岡農産（藤岡さん）**

生産者からの立場からになりますが、農業の現場では高齢化によって離農が増えています。そのような状況下において、ふるさと納税の売り上げを活用して活用されない農地の借受や買取が行えているので、耕作放棄地の減少にもつながっており、生産者にとっては規模拡大になって生産量も上がるので生産者にも所有者にもプラスになっています。

また、ふるさと納税を始めてから新たに7名の雇用につながり雇用の面でも貢献が出来ていると思っています。

### **ウィルドリブン（高田さん）**

実家の事業として阿仁前田でスーパーを行っていますが、人口減少によって事業の継続が難しくなっています。それを今後も継続していくためにどうするのかを考えたときに、ふるさと納税をきっかけとして事業者の方々から自社のファンになっていただいて、ファンとなっていたいただいた事業者の商品を自社の通販に流し込むというような取り組みを考えています。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

皆さんからの発言を踏まえて市長からお願いします。

### **市長**

布田さんからは、他の事業者と連携したいという話がありましたが、以前に高級車のステアリングを作ったということもありましたので引き続きオンリーワンの商品を作り続けてもらいたいと思いました。

また、藤岡さんや高田さんからは事業を行っていくうえでのこだわりを伺うことが出来ました。このような方々が北秋田市でふるさと納税に携わっているというのは、北秋田市の産業や地域づくりという点においても期待が出来ると感じました。これからも頑張っただければと思います。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

先程、市長から地域づくりという言葉がありましたがその点についてありますか。

### **ウィルドリブン（高田さん）**

ふるさと納税は地域づくりと密着していて、自治体ではふるさと納税を財源としてこれまでに出来なかった事業を行うことが出来るということで故郷を良くしていくための原資となるものであると思っています。

また、ふるさと納税を支えている事業者においても雇用が生まれることにもつながっています。

### **HOLTO（布田さん）**

ふるさと納税は地域づくりにつながっていると思うので引き続き頑張っていきたいと思っています。

### **藤岡農産（藤岡さん）**

農業はあまり良いイメージを持たれていないと感じていますが、ふるさと納税の取り組みを通して結果を出すことが大切だと思うので、市内の生産者と意識の共有を図って現場から明るい話題を作れるように頑張りたいと思います。

### **ファシリテーター（三浦さん）**

納税していただいた財源をどのように活用していくかということも大事になるとは思いますが如何でしょうか。

### **市長**

これまでに多くのご寄附をいただいておりますが、これまでに子育て支援やその他の事業に有効的に活用させていただいています。寄付者の希望もありますので希望に沿ったものに有効的に活用するようにしています。

また、今後も持続的に寄付額が維持できれば良いのですが天候にされやすいものに頼ってはだめなので返礼品の掘り起こしや新しい取り組みを考えて行かなければならないと思っています。

### ファシリテーター（三浦さん）

以上で本日のテーマについて終了します。せっかくですので傍聴席から何かありませんか。

### 聴衆

寄付者は寄付するときに6つの項目から選択して寄付しているとのことですが、6つの項目に分かれた寄付額のなかで事業を行う際に弊害などないのでしょうか。

また、6つの項目は今後も変更しませんか。

### 市長

寄付額の30%が返礼品の代金に充てられることになるので14億という金額をそのまま使えるわけはありませんが、そのなかで寄付者が希望する項目に沿った事業に活用させていただいています。

寄付の使われ方については毎年、市のホームページ等で公表しているのと寄付者の方々にもお知らせしています。

6つの項目の中には、「市長が必要と認める事業」という項目もありますので、そのようななかでも有効的に活用していきたいと思っています。

### 聴衆

ふるさと納税という名前がついている限り、寄付者からいただいた寄付のありがたみを市民に落とし込むまでが重要だと思います。実際にふるさと納税でこれだけ寄付があって、おかげでこれだけの事業を行えたということがわかるような発信をどのように行っているのか、また、使途について希望するときに選択する項目が漠然としているのでわかりやすくするとか出来ないのでしょうか。

### 市長

寄付者それぞれに希望する使途がありますのでそれに沿った活用をさせていただいています。使途については、市のホームページ等で公表しているのと寄付者の方々にもお知らせしています。

また、使途については色々な事業とのバランスを考えながら活用させていただいています。寄付者からのご意見等もしっかり把握しながら活用をしていきたいと思っています。

### ファシリテーター（三浦さん）

最後に参加者の方々と市長からお願いします。

### ウィルドリブン（高田さん）

質問のあった使途については、非常に重要なものだと思います。14自治体のサポートを行っていますがどの自治体でも使途について非常に考えていて、どのようにすれば自治体のためになるのか試行錯誤しています。それが今後のふるさと納税において問われてくる重要な要素だと思います。寄付が多くなって良かったではなくどのように活用して、そこに市民がどれくらい興味を持ってもらえるかが大切になります。市民の関心という点では全国のどの自治体においてもまだまだ低いと思っています。そのようななかでタウンミーティングを行えたということは良い機会であったと思います。ありがとうございました。

### 藤岡農産（藤岡さん）

ふるさと納税と通じて感じていることは、関わっている人が幸せになっていることだと思います。もっといろんな人を巻き込んで幸せになる人が増えてくれればと思いました。使途という面でも市民に共有されればもっとふるさと納税の価値も上がると思うので、連携の輪が広がることを期待しています。

## HOLTO（布田さん）

北秋田市に貢献できるように商品開発だとか協力していただきながら頑張ります。

## 7. 市長感想発表

### 市長

ふるさと納税がスタートした当初は現在のような14億円という額は想定していませんでした。この制度は返礼品合戦になってはいけないということで規制が設けられましたが、税収が少ない自治体においては非常に魅力的な制度でありますので、いただいた寄付を大切に活用していかなければなりません。そのことを肝に銘じて市が取り組む施策事業においてもしっかりと精査しながら活用していかなければならないと思いました。

人口減少・高齢化が進行している北秋田市ではありますが、外から応援していただいている方々からの貴重なご寄附であるので、大事に活用しなければならないと改めて考えさせられました。今後もしっかりと取り組んでまいります。

## 8. ファシリテーターまとめ

### ファシリテーター（三浦さん）

ものづくりにかける事業者の熱い思いと寄付者の地域に貢献したいという思いがひとつになる。それを実現していく自治体、関わったすべての方々がひとつになって幸せを作っていくのだと思いました。

人口減少に対する解決の手立てはなかなか見つかりませんが、小さくても持続可能な地域として今後、北秋田市が進んでいくために、ふるさと納税をどのようにして活かしていくかが問われていると思います。その点を踏まえて取り組んでいただければと思いました。本日はありがとうございました。

## 9. 閉会

### 司会

これもちまして「令和5年度 市長と語ろう！タウンミーティング」を終了いたします。

本日は、ありがとうございました。

## 市長と語ろう！タウンミーティング（写真集）



津谷 永光 北秋田市長



ファシリテーター  
三浦 栄一さん



(株) ウィルドリブン  
代表 高田 要一郎さん



(有) 藤岡農産  
代表 藤岡 智洋さん



HOLTO  
代表 布田 信哉さん